

かんさい

喉頭は、呼吸の際に肺から口へ空気が通る「気道」の一部で、いわゆる「のど」にあたります。

声帯は、喉頭の一部をなす組織です。私たちが声を出す時、吐く息によって声帯が振動します。それが息に伝わり、口の形を変えることで声として聞こえます。

喉頭には、飲食物が気管に入らないよう「ふた」をする役割もあります。

喉頭がんは声帯にできることが最も多いです。患者の大半は喫煙者であることから、「たばこ」が最大の原因

ミュージシャンのつんく♂さんが4月、喉頭がんの治療で声帯を摘出し、声を失ったことを明らかにしました。同様の経験を持つ患者は少なくありませんが、再び声を出せる方法があります。

なぜ起きる?



長引く声のかすれや、のどのイガイガ感が典型的な症状です。がんが進行すると血の混じた痰が出たり、どの痛みを感じたりします。呼吸困難が起きることもあります。

早期がんでは、放射線治療や声帯を残す手術で完治を目指します。声を失うのは主に行進がんで、最初から声帯を含む喉頭全体を摘出する場合が、放射線治療後に再発した場合です。

喉頭を摘出する際、首の下の方に穴を開けて気管に流れさせながら声を出します。練習すれば多くの人は数ヵ月で習得できます。声が低く小さくなりますが、声を増幅し聞こえやすくなります。

喉頭がんの診療件数が多い関西の主な病院

府県	病院名	代表電話
大阪府立成人病センター	06-6972-1181	
大阪大	06-6879-5111	
大阪市立大	06-6645-2121	
関西医大枚方	072-804-0101	
府立医大	075-251-5111	
京都大	075-751-3111	
神戸大	078-382-5111	
県立がんセンター	078-929-1151	
兵庫県立医大	0744-22-3051	

声を取り戻す方法はいくつかあります。「一つは食道の粘膜を振動させる食道発声。食道の中に空気を取り込み、げっぷのように逆流させながら声を出します。練習すれば多くの人は数ヵ月で習得できます。声

が低く小さくなりますが、声を増幅し聞こえやすくなります。

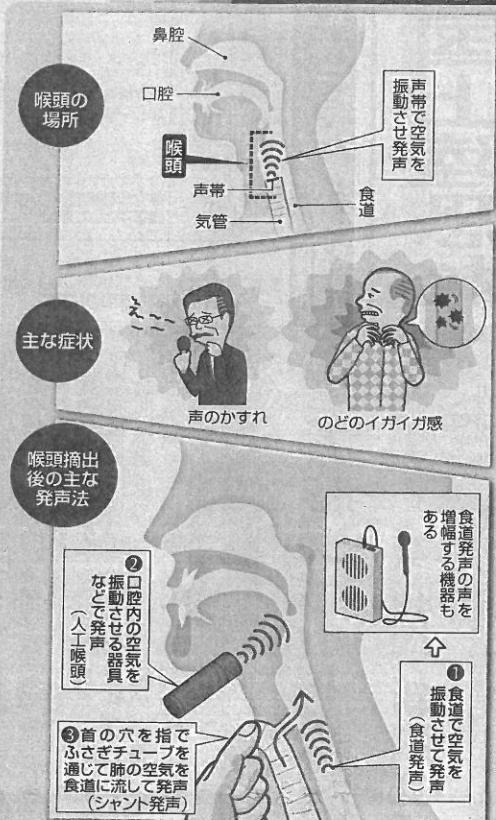
## 食道や口腔の空気振動

2015.7.16 Y(夕)(2)

喉頭がん



喉頭がんと手術後の発声法



\*「医なび」では、身近な病気の知識や治療の情報を伝えます。科学医療部 oyagaku@yomiuri.com

※監修 藤井隆・大阪府立成人病センター(大阪市東成区)耳鼻咽喉科主任部長(日本頭頸部外科学会認定頭頸部がん専門医)